

感謝のメダル

立田 紗依子

私は、この八月に歯の手術を受けました。小学校の時に、歯を抜くために歯ぐきに麻酔をした事がありました。その時は注射も歯を抜くのも怖くて口を開けられなくて先生を困らせてしまいました。今回は全身麻酔での抜歯です。口控外科の先生は、「寝ている間に終わるよ」と言いましたが、「入院」も「全身麻酔」も初めての経験です。私は先生の説明を聞いたただけでも恐ろしくなりました。

入院する前に麻酔科へ行つて、今度は麻酔科の先生から全身麻酔の説明を受けました。私は「もし手術中に起きてしまつたらどうなるのだらう。もし一生涯目が覚めなかつたらどうしよう」そんな不安ばかりがつつて、とうとう泣いてしまいました。中学生なのに、何泣いているのよ」と言われるかと思ひました。だが、麻酔科の先生はやさしく、「そうだよ、怖いよね。でも途中で起きたり、逆に収む

り、ばなしにならないように、しっかり検査して準備するからね。」と声をかけてくれて、泣きやむのを待ってくれました。その言葉と時間で私の心配な気持ち落ち着いてきて、安心して入院できたように思います。

そして手術当日、怖さはなくなっていました。たが、とても緊張していました。手術室に向かう時から背筋が凍りそうでした。けれども手術室の扉が開いた時、あの麻酔料の先生とスタツフの人達が笑顔でむかえてくれたので少しほっとしました。そこからずっと明るい声で話をしてくれましたので、眠ってしまいうまではあ、という間でした。

目を覚ました時には、手術はもう終わっていました。本当に「寝ている間に終わる」のだな、すごいなと信じられない気持ちでした。しばらくしてから、病室に麻酔料の先生が入ってきて、「大丈夫そうだね。」と言って出ていききました。そよ風のようでした。

今回、全身麻酔での手術を受け、私

には知らなかつた事がありません。手術を
 する「というところ、身体を切つたり、悪いところ
 ろを取つたり、皮ふを縫つたりという所ばかり
 リクローズアップされます。けれども、麻酔
 をするだけではなく、患者を安心させる説明
 をしたり、麻酔が切れた後までの体調の変化
 に気を配つたりという麻酔科医の支えがあつ
 てこそその手術なのだなと気づいた時、「パラ
 リンピックの伴走者」のようでもかつこ
 いいなと思ひました。

パラリンピックは選手と伴走者にメダルが
 授与される事を、私は今年の東京大会で知り
 ました。競技前から終了後もずっと側でサポ
 ートしている様子は、麻酔科の先生の姿と同
 じように見えませんでした。私は、今回お世話にな
 った麻酔科の先生に感謝のメダルをプレゼン
 トした。気持ちになりました。そして、私を
 あたたかい言葉と笑顔でつつんでくれた先生
 のように、友達や身近な周りの人達にやさし
 く接していこうと思つていきます。